

課題：大田区立道塚小学校 令和5年度 第5回学校運営協議会

日時：2024年1月20日（土曜）10:00-11:30

場所：道塚小学校2階 家庭科室

出席：敬称略

（委員）

横山委員、加藤委員、岩井委員、花島委員、
鶴岡委員、多田委員、瀬尾委員、梨本委員、野崎委員、
安田委員、宮城委員、上田委員、細川委員（記）

（学校）

・大場校長、・藤田副校長

議事内容：

◆校長挨拶

→本年もよろしく申し上げます。

◆学校評価について

（報告・協議事項）

●学校評価/自己評価に対する協議会委員の評価

→「プラン1. 未来社会を創造的に生きる子どもの育成」について

→「おたの未来づくり」教科の先駆者として授業研究を先生方が行っており手本になっている

→アンケートの電子化はスクリレアプリを使っている、学校も電子化をすすめる

→「プラン2. 学力の向上」について

→学校公開、公開授業を参観していると、子ども達の学習意欲は高い

→読書は、国語だけでなく他教科にも影響する、月間10冊以上を達成しているがさらにすすめていく

→家庭での読書・自主学习は難しいところがあり、自学教室をすすめる

→「プラン3. 豊かな心の育成」について

→校内で問題は起きていないが放課後、公園とかであったりする、学校として指導していく

→「プラン4. 体力の向上と健康の増進」について

→中休みに子ども達が元気に遊んでいる、遊ぶ場所を学年で分けた、継続していく

→週3回5,6年生の放課後遊びを行っている、朝遊びは実施していない

→「プラン5. 魅力ある教育環境づくり」について

→コロナ影響が無くなり各行事おこなわれている

→学校公開など保護者の関心は高く、祖父母がくることもある

→子どもたちに「個別最適な学び」を提供するため教員含めて研鑽をすすめている

→先生方は積極的に参加してくれている

→「プラン6. 学校・家庭・地域が一体となっても進める教育」について

→今年度、スクールサポートと先生方との協議を行った、授業支援など密接な関わりを持っていく

●学校の教育活動に関する評価報告（保護者の評価）

→令和2年度から継続して行っており4年目となる

→423家庭中、340家庭からの提出があった（提出率約80%）

→全項目について向上している

(1)学校が楽しい (2)友達との良い関係 (3)分かりやすい授業 (4)外遊び

(5)良いところがある (6)基本的な生活習慣 (7)家庭学習の習慣 (8)分かりやすい広報

→保護者コメントから

→ICT 活用、連絡・お手紙の電子化をすすめる

→学校行事、コロナがあけ今年度学芸会を行った

→衣装で保護者の負担があった、改善していきたい

→宿題について、国語の音読の宿題がある、英語の音読は行っていない

→大切な時期であり英語の音読も検討いただきたい

●校長から

→総論として「保護者の満足度」があがっているのは良かったと思う

→また「子どもの自尊心」があがっているのは良かった

→先生方が倒れることなく元気にやってくれてた

→課題は3つ感じている

(1) 学力、特に家庭学習

(2) 体力向上、遊ぶ習慣、体力

(3) 防災

(意見・議論)

●協議会委員から意見

→評価観点

→評価は上がっており、保護者が学校に興味を持ってきてきている

→今年度は、学校との関わりを多く持つことができた

→大人が関わっていることを見せれた、これからも続けられたらよい

→学力

→外国籍の児童、話せるけど読めない、漢字のテストとかが難しい

→児童ではなく親の問題もある、親に学校へきてもらう必要があると思う

→学校で疎外されていることもあると思う

→自己肯定感をもってもらう必要がある

→ゲストティーチャーのように自国のことを話してもらうのはどうか

→家庭学習

→共働きの家庭などでは環境がつくれていない

→自学教室など学校には環境がある

→土曜日とか PTA で協力できるものがあれば協力する

→コロナ中少しでも安心できるよう YouTube などを見せていた

→慣れてしまってなかなか家庭では、自主学習に入れない

→遊び・体力向上

→中学生の子どももいるが、子どもの遊ぶ場所がない

→5月6月に体力テストを行い10月に結果がくるような状況、結果年度で対応ができていない

→9月以降結果をみながら指導できるよう動画の用意など改善を図っている

→防災・避難訓練

→いざの時は難しい、自主的に動くにはどうすればよいか小さいころから訓練し育てていく

→避難訓練は学校行事で一番大事な行事、年間11回やっている

→学校では「マイクが使えない状況」などいろんな想定してやっている

- 運動会、学芸会、遠足などの中でも防災・避難の意識は大事
- 地域と連携してできればよい
 - 学校のホームページに学校の特色があらわれている、もっと充実を図る・発信する
 - 地域でも防災訓練をやっている、保護者と参加できればいいアピールになる
 - 自治会の防災、参加してもらいたい、子どもたち含めた協力体制が必要と考えている
 - 子ども達にもできることがあることを教えてもらいたい
- 災害・事故の時、すみやかな避難ができている
 - 日本人は、順番をまもる、清潔を保つ、学校での指導、避難訓練が身につけている
- 防災に関して、子どもが学校で学んだことを家で伝えるのはどうか
 - 防災訓練を地域、小学校、それぞれでやっている
 - 地域全体でやる必要がある、過去には子どもの引き取りとかを一斉にやっていた
 - CS/学校運営協議会は進めることができる、現場で一步踏み込んでやり発信していく
- 働き方改革
 - 夏休みに話をして先生方の意識をかえることができた
 - 「授業の質があがる、学校・地域のためになる」など保護者に発信できるとよりよい
- 地域連携
 - PTAも始まっている、保護者が関心をもってくれているがまだまだ
 - スクサポ、行事の関心が高まっているが参加率や手伝いにつながっていない
 - 中高生を巻き込むのがよいか話し合っている
 - 学校と家庭が近づいてきた年だった先生方/保護者と話ができた
 - ラビットクラブが休日世話をしているが1年生の保護者がやることになった
 - 学校公開 1,2年生で昔遊びをやっていた「親のすごいところ」を見せることができる
 - いい機会をつくってあげている
 - 地域行事も親子参加を考えている
 - 自治会も関わっていく、今は掲示板を使ってもらっている
 - 子ども達が「ハンカチ販売」のプレゼンにきた
 - ゲストティーチャーに地域のいろんな方になってもらう、地域を発掘しプールしておく
- その他
 - 成人式のタイムカプセル、小学生が成長し多くの成人が参加した
 - これからも続けていく、道塚小のアイデンティティであり、子ども達のアイデンティティにもなる
 - 道塚らしさ、道塚の魅力を磨く、地域性、住民性は変えれない
 - 「道塚らしさ」を子ども達が話せるようにする・なる

●意見を受けて校長から

- C/S 推進のリーダーとして「①明確にする ②重点化する ③具体化する」を意識してきた
- この3年間「地域と授業を作る」をやってきて、できたと思う、成果として
 - (1) スクサポとうまくいっている (コーディネートとしてくれている)
 - (2) 保護者の関心が高まった (肯定的である)
 - (3) 人とのつながりがよくなった
- 次の3年で言えば
 - 道塚マインドを育てる、道塚に生まれて良かった、道塚としてのアイデンティティ
 - (1) PTA と何をやるか、いっしょにやる
 - (2) スクサポに、ゲストティーチャーを発掘してもらう

- (3) 防災訓練・避難訓練を一緒にやる、コラボする
 - 幼稚園、小学校、中学校、地域、同じ日に引き取り訓練など
- (4) 外国籍の問題、外国人に優しい学校・地域
- (5) 働き方改革、「先生方が元気」が売り
 - 具体的にやれることを一つずつ増やす
 - せっかくいい授業やっているのだから先生方に言いたい
 - 「子ども達に帰ったら「今日は楽しかった」ってお家の人にいいな」
 - 広報活動として一番よい

◆防災について、学校避難所、地域防災、令和6年能登半島地震について

●「災害時動員計画作成要綱」について

- 災害のレベル（震度）に応じ、教職員を小学校へ配置する場合の体制
- 非授業の場合、授業時間帯など子どもがいる場合は、子ども達が最優先
- 実態として、先生方の住まい遠い・子どもがいるなどあり、1/3来られればよい
- 世田谷区など他地区では、炊き出しとか地域との避難訓練をやっていた
- 大田区はやっていない、地震がきたらどうなるか不安がある

●「学校図（震災対応）」について

- 災害発生時の学校/校舎のエリア割り当て、避難経路を図示したもの
- 運動場で健康チェックして症状の有無で、エリアを振り分ける
- 教室が避難場所になることを意識するよう先生方に注意している

●「防災教育及び訓練、学校防災活動拠点」について

- 学校では、災害事例に応じた体制・対応を組み避難訓練を行っている
- 3/11の経験から、電話が繋がらず親に子どもを引き渡すまで先生方は待つしかない
- 学校避難所として、非常事態用に鍵を地域の方にあずけている
- 学校避難所の運営はできる人がやらないといけない
- 学校避難所運営協議会が開催・運営されていない。
- 過去には開催されていたが、コロナ禍もあり今はやっていない。
- 学区と自宅の自治会の割り当てが異なっている
- 子どもを含め一次避難で道塚小にいても、避難所生活となったら割り当ての学校へ移る必要がある
- 学校・PTAではやりにくいところがある、学校運営協議会で推進やっていく必要がある。
- 道塚小の備蓄倉庫の状況をみることができます。

◆その他、連絡事項

- 2/15(木曜)大田区主催「おおたの教育研究発表会」があります。
- 4分科会で発表、道塚小はC/Sにおける「安全・安心な教育環境づくり」を発表
- 協議会委員のみなさんは各自申し込みをお願いします。
- 次回 第6回学校運営協議会 3月9日 本年度の反省、3年間のC/S活動の振り返りを行います。

以上